

公務災害防止事業の推進

▶ 消防団員安全管理セミナーを実施して ◀

福岡県消防協会筑紫地区連絡協議会
(大野城市消防団、春日市消防団、筑紫野市消防団、太宰府市消防団、那珂川市消防団)

1. はじめに

筑紫地区連絡協議会は、筑紫地域にある大野城市、春日市、太宰府市、筑紫野市、那珂川市の5市消防団を以て組織しています。

各市の人口は大野城市が約10万人、春日市が約11万人、筑紫野市が約10万人、太宰府市が約7万人、那珂川市が約5万人ですが、福岡都市圏に属し、福岡市のベッドタウンとして人口も増加傾向にあります。

また、太宰府天満宮をはじめ、九州国立博物館、二日市温泉等の観光名所、自然豊かな山々もあり、都市化と自然の融合した住みやすい地域です。

2. 筑紫地区消防団の概要

(平成31年4月1日現在)

大野城市消防団は、1団本部と6分団の183名(女性団員3名)で組織され、ポンプ車3台、積載車4台を所有しています。

春日市消防団は、1団本部と5分団の111名(女性団員5名)で組織され、小型動力ポンプ付積載車5台を所有しています。

筑紫野市消防団は、1団本部と8分団の320名(女性団員9名)で組織され、ポンプ車9台、小型動力ポンプ付積載車3台を所有しています。

太宰府市消防団は、1団本部と3分団16部の224名(女性団員12名)で組織され、ポンプ車5台、小型動力ポンプ付積載車11台を所有しています。

那珂川市消防団は、1団本部と4分団の251名(女性団員4名)で組織され、ポンプ車4台、小型動力ポンプ付積載車9台を所有しています。

各団は、その他にも様々な装備を有し、日頃から訓練を積み、複雑・多様化している災害へ備えています。

3. 消防団員安全管理セミナー開催の経緯

本会は、各消防機関相互の連絡調整を図るとともに、防火思想を普及し、防火消防の教育研究と消防施設の改善を図り、併せて消防機関並びに会員を弔慰救済することを目的としています。本会の活動の中で、毎年7月の第1日曜日に5市の消防団が集まって、消防活動に役立つ講習会を開催しています。安全管理セミナーは、平成22年にも本会で開催しており、その当時のアンケートでも大変好評であったことから、消防団員に必要な自身や仲間の安全管理、健康管理に関する知識の習得を目的として開催いたしました。

4. 安全管理セミナーの様子

令和元年7月7日(日)に春日原小学校体育館において、筑紫地区5市の消防団が参加して消防団員安全管理セミナーが開催されました。講師には消防基金のS-KYT指導員の櫛井正喜氏をお招きして講義をしていただきました。講義の内容としては、事故発生のメカニズムや、

予防策、事故発生後の対応、消防団員が行う公務の範囲から、災害現場活動の危険、公務災害の個別事例等を話していただきました。公務災害の個別事例では、具体的な事例を説明していただいたことにより、公務災害の判断基準の参考になり、今後の消防団活動に活かしていけると思います。最後は、各団から代表者が前に出て、指差し唱和を行い、各団の一体感、連帯感が盛り上がりました。講義後のアンケートでは、「現場には事故のリスクがあることを理解し、自分と仲間の身を守るための回避について考えていく必要がある。他の団員にしっかりと共有する。」や、「災害現場等や訓練への事前準備や心構え、現場での冷静な判断の大切さが分かった。また、日頃の健康管理にも十分気をつけたいと



思いました。」など今後の消防団活動に活かしていきたいといった声が多く聞かれ、大変好評でした。

5. 今後の取組

近年は、ゲリラ豪雨や、地震等の災害が頻発しており、災害時における消防団への期待も高まっています。それに應えるためにも団員の確保や資機材の充実を図るとともに、団員の健康管理や安全管理にも力を入れ、消防団活動をしやすい環境を整えるためにも、今回の講義で学んだことを活かし、「ゼロ災」を目指していきたいと思います。今回の講義の開催に当たりご協力いただきました櫛井講師、消防基金の担当者の皆様に改めて御礼を申し上げます。

